

野幌の丘から

No.185 2015.10

ホームページアドレス <http://www.ffpri.affrc.go.jp/hokuiku/>

(過去の「野幌の丘から」はホームページからご覧いただけます)

森町で誕生したサクラ「青葉枝垂」、「大撫子」と 名寄市の病院のシンボルのヨーロッパアカマツの里帰り

北海道育種場では、枯損の危機に瀕した巨樹・銘木のクローンを保存するとともに、その所有者にも後継樹として里帰りさせる「林木遺伝子銀行 110 番増殖サービス」を行っています。

本年は、4 月にサクラ 2 系統と、ヨーロッパアカマツ 1 系統を里帰りさせましたので紹介します。

【森町】

道南の森町は「歴史と桜のまち」として青葉ヶ丘公園やオニウシ公園を桜のテーマパークとして整備し、毎年 10 万人を超す花見客を迎えています。この公園ではたくさんのサクラを見ることができますが、その中には町の「桜博士」として知られた元農業改良普及員の故田中淳氏が交配を行って誕生した森町の固有種があります。(写真－1)

その固有種のサクラの樹勢が弱ってきたことから増殖サービスの依頼があり、翌春に穂木の採穂およびつぎ木を行いました。つぎ木されたサクラは約一ヶ月で葉が大きく展開しその後も順調に成長したことから、本年の 4 月 20 日に青葉枝垂、大撫子を森町役場へ里帰りさせました。



(写真－1)

【名寄市】

道北の名寄市にある名寄市立総合病院には長年、病院のシンボルとして市民から親しまれてきたヨーロッパアカマツ(写真－2)がありました。しかし、病院の増改築工事に伴って伐採せざるをえない状況となり、増殖して欲しいという依頼を受けました。

これを受け平成 25 年冬、穂木の採取およびつぎ木を行いました。その後 2 年間の養苗を経て本年の 4 月 6 日に里帰りさせました(写真－3)。



(写真－2)



(写真－3)

(遺伝資源管理課 湯浅 真)



国立研究開発法人 森林総合研究所林木育種センター北海道育種場
Hokkaido Regional Breeding Office, Forest Tree Breeding Center
Forestry and Forest Products Research Institute

フィンランド共和国での共同セミナーの報告

当育種場ではフィンランド自然資源研究所（以下 Luke）と共同研究「Joint collaborative research in tree breeding（林木育種に関する共同研究）」を行っており、5月17～24日の期間にフィンランド共和国において最終セミナーが開催されました。同国の林業・林木育種事情の情報収集と共に、Luke との共同セミナーに参加してきました。

セミナーはフィンランド南東部の Luke プンカハリユ支所で開催され、日本側からはスコッチパインに対するマツノザイセンチュウ接種試験の結果や日本で行われたハイブリットウヒの育種などについて3課題、フィンランド側からはスコッチパインの心材の耐久性およびヨーロッパトウヒの不定胚の増殖に関する2課題の発表を行いました（写真－1）。



（写真－1 プンカハリユ支所で開催された最終セミナー）

午後には、2012年春に日本から送付したハイブリットウヒの種子から育成した苗木を、双方の研究者が共同で植樹しました（写真－2）。



（写真－2 日本で交配したハイブリットウヒ苗の植樹）

また、フィンランドで交配したハイブリットウヒの種子を受け取り、日本に持ち帰りました。今後日本側でも苗木の育成を進める予定です。

フィンランドは森と湖の国と言われるほど湖が多く存在しますが、プンカハリユは湖が多い地域で、晴れた日にはまるで鏡のような湖を拝見することが出来ました（写真－3）。



（写真－3 国土全体の1割を占める湖プンカハリユ付近）

またフィンランドは先進国の中でもトップクラスの林業が盛んな国であり、小さい島の中にも船で伐採用重機を運び込み、伐採などを行っていました。今回の出張では、採種園や検定林といった林木育種に関する施設や試験地に加え（写真－4）、林業種苗



（写真－4 スコッチパインの屋内交配施設）

を生産する工場や伐採現場を視察し、現場の方にお話を伺うことができました。次号にて、フィンランドの林業や林木育種事情を紹介したいと思います。

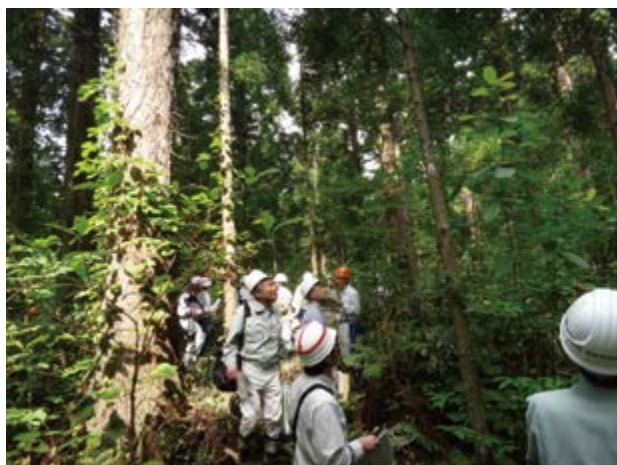
（育種課育種研究室 矢野）

現地研究会を開催 ―地域環境に資する森林整備―

北海道育種場と北海道林木育種協会との共催により北海道林木育種現地研究会（以下「現地研究会」という。）が平成27年9月1～2日にかけて開催されました。

この現地研究会は、北海道の森林資源の充実に向け、林木育種の成果を検証するとともに取り組むべき新たな課題を明らかにすることを目的に実施しており、今年で53回目となります。今年、12機関30名の参加のもと、「地域環境に資する森林整備」と題して、道南地方の現地視察を行いました。

1日目は、檜山森林管理署内の国有林で乙部町内に位置するスギの複層林（写真－1）とトドマツのコンテナ苗植栽試験地の視察し、90年を経過した大径材の取り扱いの問題点やコンテナ苗の出荷から植付までの苗木の取り扱いが植付後の成長に及ぼす影響や耐陰性品種の開発などについて議論が交わされました。その後、江差町内の砂坂海岸林を視察し、海岸林造成の経緯や今後の海岸林の管理方法などについて意見交換が行われました。



（写真－1 複層林内）

2日目は、厚沢部町の土橋自然観察教育林（写真－2）の視察を行いました。ここは温帯と亜寒帯の樹種が入り交じり、学術的にも貴重な森林帯を形成しており、ヒバの北限とトドマツの南限地域になっているところです。また、ここのトドマツ天然林から選抜された精英樹は自殖による種子から育てた個体に欠点が少ないなどの紹介がありました。



（写真－2 土橋自然観察教育林）

最後に、森町の株式会社ハルキの視察を行いました。地域材を普及させるために建築材への木材利用の提案や道南スギを内装材へ活用するための新たな製品開発、従来手工具で加工されていた木造住宅の柱や梁の継ぎ手、仕口を機械により加工するプレカットシステムについて説明がありました。



（写真－3 株式会社ハルキ）

今回の現地研究会では、林木育種関連のことだけではなく、林業林産業全体のことを考え、最終的にどのような方向で育種を進めていくか議論することの必要性をあらためて認識する機会となりました。

（育種技術専門役 千葉 信隆）

平成27年林業研究・技術開発推進 北海道ブロック会議育種分科会 特定母樹等普及促進会議

本年度の林業研究・技術開発推進北海道ブロック会議育種分科会は、9月25日に札幌市内のかでる2・7において開催され、関係機関から36名が出席しました。

林野庁から林木育種事業を巡る最近の動向として、マツノザイセンチュウ抵抗性品種開発技術高度化事業・苗木安定供給推進事業・次世代林業基盤づくり交付金・花粉発生源対策の推進についての説明がありました。

引き続き、特定母樹等普及促進会議が開催され関係機関から42名が出席しました。この会議は、昨年まで行っていた高速育種運営会議の流れを受け育種種苗の普及・促進のため設置されたものです。

林野庁より、特定母樹の指定と基本方針の策定状況と特定母樹の応募要項について説明がありました。

北海道育種場からは①北海道育種基本区における特定母樹の取り組み状況及び第2世代精英樹候補木と優良木の選抜状況について、②林木育種事業の概要として、平成26年度の実績と平成27年度の計画を報告し、平成27年春季の国有林採種園及び道有林採種園の着花(果)状況について報告をしました。



さらに、森林総合研究所の第三期中期計画に基づいて、平成27年度に取り組む「林木の新品種の開発」、「林木の育種技術の開発」、「林木のジーンバンク事業」の計画及び「種苗の生産及び配布」の5カ年計画について説明をしました。トピックスとして、材質優良トドマツ品種の開発・国有林採種園における取り組みについて紹介しました。

また、北海道庁及び北海道立総合研究機構林業試験場からは、採種園の造成や整備方針、林木育種関係の研究概要について報告・紹介がありました。

提案・要望事項では、間伐特措法の特定母樹については、グイマツのほか、北海道の主要な造林樹種

であるカラマツ、トドマツ、アカエゾマツの申請、原種の安定供給の確保、公営採種園の整備促進と支援、採種園の着花促進技術の開発と技術指導等を求める要望が出されました。

(連絡調整係長 上田雄介)

一 般 公 開

5月16日に森林総研北海道支所と共同で同支所において一般公開を開催しました。



(さし木体験をする来場者)

今年の開催は例年よりも時期が早く、天気も朝から安定しない中、来場者は174名を数え多くの方が来場されました。

催しとしては「実験林エコツアー」などが行われ、当场でも「さし木体験コーナー」を実施しました。自らさし木を体験することを通じ、多くの方に育種や樹木の増殖に関して興味を持っていただきました。

(連絡調整係長 上田雄介)

国立研究開発法人 森林総合研究所
林木育種センター 北海道育種場

〒069-0836
北海道江別市文京台緑町561-1

編集・発行 北海道育種場広報委員会
発行日 2015(平成27)年10月28日
お問い合わせ先 連絡調整係
電話 011-386-5087
e-mail: hokkaidoikusyu@ffpri.affrc.go.jp

※本誌掲載内容の無断転載を禁じます。